

百歳元気プロジェクト推進ニュース

●平成27年度 介護保険制度改正●

VOL. 11 (2014. 5月)

新たな制度の柱は…

J A 宮城中央会 営農農政部

- ①高齢者が**住み慣れた地域で生活を継続**できるようにするため、**介護、医療、生活支援、介護予防を充実**。
- ②**低所得者の保険料軽減を拡充**。また、**保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直す**。

介護保険制度は、3年に1度、市町村による計画の見直しがありますが、ちょうど来年度が新たな制度のスタートの年に当たります。

新制度の基本的な柱は、上記のとおり①お年寄りが、介護が必要になっても、住み慣れた地域で生活を維持できるような仕組みをつくること、②所得や資産のある人の保険料の負担を厚くすること、です。

超高齢化社会を迎えたことで、医療や介護を利用する人が増え、医療報酬や保険報酬が国の財政を圧迫していることから、国はなんとかして医療機関や介護事業所の利用が抑えられるよう、健康寿命の延伸や、地域の人たちによるケアの仕組みをつくろうとしているのです。(=地域包括ケアシステム)



認知症に関する取り組みはどうでしょう…??

認知症に関する取り組みについても、上記方針に基づいて、検討されています。

「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考えを改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」がビジョンとして描かれています。

よって、これまでは認知症の人の行動や心理に「危機」が発生してからの「事後的な対応」が主でしたが、今後は「危機」の発生を防ぐ「早期・事前的な対応」が基本に置かれています。

書籍のご案内

『チェンジ！認知症～もう、ひとりで悩まないで～』

こぶし書房 出版
日本農業新聞 斡旋



老人性認知症をわずらう人は今や 280 万人を超え、65 歳以上の 4 人に 1 人が認知症または認知症予備軍といわれる時代となりました。

日本農業新聞が行った「認知症に関するアンケート」では、老後、最も不安に思う病気は認知症が 39.1%と、がんを上回りトップとなっています。その一方で、認知症を予防できることについては、「あまり知らない」を含めて知らない人が 46.6%。認知症への介護のしくみや、家族への支援についてもまだよく知られていないのが実情のようです。

高齢化が進み、身近になった認知症ですが、知識が不足しているため対応の仕方が分からず、家族の不安は高まっています。

認知症になることは「恥ずかしいこと」「隠さなければならないこと」ではありません。認知症になっても、誰もが心穏やかに、安心して暮らせる社会をどうつくるのか。

その発想の転換が、『チェンジ！認知症』というタイトルに込められています。

本書では、認知症のお年寄りと生活をともにする家族のひと工夫や、地域での支援のありかた、介護保険の上手な使い方など全国の事例が紹介されています。認知症の人を支える家族の方々、そして認知症サポーターをはじめ地域の人々に役立つ一冊です。



映画「僕がジョンと呼ばれるまで」

上映終了～ご協力ありがとうございました！～



今年 3 月 1 日から公開が始まった映画「僕がジョンと呼ばれるまで」は、「脳トレ」で有名な東北大学加齢医学研究所・川島隆太教授が開発した認知症改善プログラムの海外初の実証研究を、仙台放送が 1 年にわたり密着取材した内容を 83 分の長編ドキュメンタリーにまとめたもので、これまでも何度かご紹介してきました。

全国 12 都市で上映され、約 2 万人が鑑賞しており、仙台市の「フォーラム仙台」では、邦画ドキュメンタリー映画の記録を塗り替え、2 カ月の異例のロングラン上映となっておりましたが、5 月 9 日で終了となりました。

あらためて、認知症に対する世の中の興味関心の度合いが伺えます。

